

法隆寺中門・地蔵堂 保存修理工事 現場見学会 参加報告

1 見学概要

日 時：平成 29 年 6 月 2 日(金)14:30～16:30

場 所：法隆寺中門・地蔵堂

参加者：15 名

概 要：平成 27 年 6 月から国宝の中門、重要文化財の地蔵堂・西園院客殿の保存修理工事が着手され、素屋根の中に入り、屋根の野地板・下地の野垂木・軒先の補修・修理状況を見学しました。近世とそれ以前では瓦が大きく変化した理由は、材料の切断に用いられた糸から針金への技術転換であることを教えていただきました。また、工事用の覆いでほとんど隠れていますが、僅かな隙間から見える軒の高さからの絶景も感動しました。修理された中門や地蔵堂が再び姿を現すのは数年後になりますが、楽しみにしています。



2 施設概要

法隆寺は7世紀に創建され、金堂・五重塔を中心とする西院伽藍、夢殿を中心とした東院伽藍に分けられますが、前者は現存する世界最古の木造建築物群です。法隆寺地域の仏教建造物として、ユネスコの世界文化遺産に登録されています。

(1) 中門

細部の様式は法隆寺様式で、国宝に指定されています。一般的に寺院の門は正面の柱間が奇数（3間・5間・7間など）になりますが、この門は正面柱間が4間で、エンタシスの柱が真ん中に建っている点が特異です。門内の左右には塑造金剛力士立像が安置され、仁王像としては日本最古（8世紀初）です。

(2) 地蔵堂

西円堂の東側石段下に建設され、室町時代前期の 1372（応安5）年に建立されました。1518（永正5）年の改修で屋根を檜皮葺から瓦葺にしたため、やや重くなりましたが、建立時の繊細さは変わっていません。国の重要文化財に指定され、地蔵菩薩半跏像が安置されています。

3 構造形式・主要寸法

(1) 中門

構造形式：四間二戸二重門，梁間三間，入母屋造，本瓦葺

主要寸法：桁行 11.9m，梁間 8.5m，棟高 14.4m，平面積 100.6 m²，屋根面積 546.8 m²

(2) 地蔵堂

構造形式：桁行三間，梁間三間，一重，入母屋造，本瓦葺

主要寸法：桁行 5.1m，梁間 5.1m，棟高 2.9m，平面積 30.6 m²，屋根面積 100.4 m²

4 破損状況

(1) 中門

基礎：周囲の壇正積で基壇の緩み，不陸や外側への傾斜

軒廻り：化粧裏板や裏甲の一部に腐朽・汚損

外壁：漆喰塗の劣化で剥落や雨漏りによる汚損

塗装：軸部・組物などの主体部の丹土塗は下方を中心に風蝕や剥落・退色箇所が多い

屋根：明治 36 年の修理以来 110 年が経過し、幾度となく雨漏り

(2) 地蔵堂

基礎：礎石や束石に不同沈下，屋根荷重の影響で四隅の柱礎石の沈下

軸部：柱が傾斜して四隅の柱と縁廻りに不同沈下が生じ、建具の開閉が困難

軒廻り：裏甲や茅負、裏板の一部に腐朽

造作：不同沈下で切目長押や内法長押が若干下がっている，縁廻りの汚損，縁束の一部に腐朽

壁：漆喰塗の一部で上塗の剥離や僅かなチリ切れ

屋根：再用瓦に凍害による破損，全体が軒先へずれたため、裏甲などに腐朽

5 工事概要

工事期間：平成 27 年 6 月～平成 30 年 12 月（43 ヶ月）

(1) 中門

屋根葺替，屋根野地・下地・軒先の補修，壁補修，塗装補修，基壇石積・土間四半敷の補修を実施している。

(2) 地蔵堂

基礎工事（礎石裾直し・軒内床面叩き），屋根葺替，屋根野地・下地・軒先の補修，木工事（縁・木階の解体・復旧），湯屋工事・屋起し），壁補修を実施している。

6 参考文献

見学会当日に配布された「国宝・重要文化財 法隆寺中門ほか 2 棟 建造物保存修理事業の概要」（奈良県教育委員会事務局 文化財保存寺務所 法隆寺出張所）を参考にした。